

アーカイブズ

ARCHIVES

沖縄県公文書館だより 第12号

平成12年7月13日発行



*Drawn by W. H. Wood, 1840s.
From a sketch by W. H. Wood, 1840s.*

Designed by R. H. Wood, 1840s.

SCENE after the PRINCE of LEO CHOO'S FEAST.

Published, Dec. 1840, by John Murray, Albemarle Street, London.

バジル・ホール一行を見送る琉球の人々

平成十二年四月より、當山善堂前館長の後任として仲村洋子館長が就任しました。また、神戸縄県文化振興会公文書管理部では理事に館長が、資料第一課長（資料課長兼）には桃園茂夫が、そして資料第二課長（副参事兼）には崎浜秀俊がそれぞれ発令されました。

仲村新館長は永年、福祉行政に携わってきましたが、女性政策室長を経て公文書館初の女性館長となりました。沖縄県公文書館開館五周年を迎える節目の年の就任にあたり、館長としての抱負を語ってもらいます。

沖縄県公文書館が開館して五年目という記念すべき年に館長の大役を受け、その責任の大きさに身の引き締まる思いで着任いたしました。

沖縄県公文書館は平成七年八月の

開館以来、県内始め国内・国外の関係機関や個人・団体等のご協力を得て二十万点に上る公文書等の歴史資料を収集してきました。

県民の財産である収蔵史料は、歴史の証言資料として県民の利活用に供しており、年々県内外や外国からの利用も増え、認知度も高まっております。

沖繩は、幾多の波乱の歴史の中で、史実を証言する公文書等の散逸、消滅が著しいという実態があり、このような沖繩にこそ公文書館の存在意義は大きいものだと思つて痛感しております。

文書館等の経験のない私には荷が重いとありますが、五年目を迎えた公文書館は、恵まれた施設、職員のもとでしっかりとした歩みを続けております。

収集資料を県民共通の記録遺産として後世へ引き継ぐ責任の大きさを実感しつつ、今後とも職員一同、関係者や利用者の声に耳をかたむけ、多くの県民に利用しやすい施設をめざして業務を進めていく所存でございます。

これまで同様、皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

財団法人沖縄県文化振興会公文書管理部は、沖縄県公文書館の業務及び教育庁文化課の「県史」、「歴代宝案」の編集事業を受託しています。



開館五周年記念行事について

沖縄県公文書館は、平成七年八月、全国で二六番目の都道府県立の公文書館として開館してからまもなく満五年を迎えます。

「公文書館」という耳慣れない名称もこの五年の間に少しずつではあります但し確実に認識されてきたのではないのでしょうか。

当館ではこれまで、琉球政府文書、琉球列島米国民政府(USCAR)資料、県文書、沖縄に関する地域資料、映像資料などを収集、整理し、利用に供する一方、「琉球政府の時代」、「岸秋正文庫の世界」などの特別展を行い、所蔵資料の紹介をしてみたいと思います。

さらに公文書館のことを知っていただくため、幅広いテーマを取り上げた講演会、講座、映画会、講習会等を開催してきました。

今年度は開館五周年を記念し、来る八月に特別展、講演会、講座を企画しています。

特別展では、「琉球国王表文奏本展」と題し、北京にある中国第一歴史

史档案館(とうあんかん公文書館)が所蔵する、琉球国王より清朝皇帝へ送られた外交文書の原資料(及びレプリカ)を見ていただく予定です。

また、中国第一歴史档案館関係者による講演会、講座、小玉正任(沖縄協会会長)、金城正篤(沖縄大学教授)による講演会も予定しています。

入場料は全て無料となっていますので、多くの皆様のご参加をお待ちしています。

表文・奏本豆知識

皇帝や皇太后の誕生日、元旦、冬至といった祝典の際に明及び清朝高官が祝賀の意をもって送る文書。琉球国王もこれにならない進貢の場合も含めて表文を送った。

表文は形式的なもので、具体的な内容は奏本として記され共に提出された。

開館5周年記念特別展

8月1日～8月10日 (原本展示)

8月12日～9月30日 (レプリカ展示)

特別講演会

8月1日(火) 14:00～15:30 「情報の交流と文書の応用」

馮伯群 中国第一歴史档案館 副館長/研究館員

8月1日(火) 15:30～17:00 「石敢當」ー現状と由来の考証ー

小玉正任 駐沖縄協会会長

8月2日(水) 18:30～20:00

「冊封使の派遣について」ー中国側の事情ー
金城正篤 沖縄大学教授

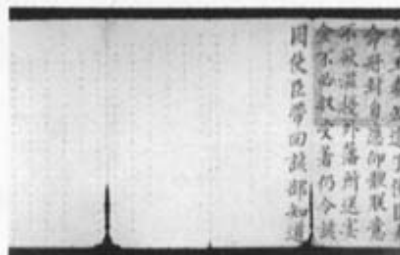
特別講座

8月3日(木) 18:30～20:00 「清代の表文・奏本と朝貢制度」

王道瑞 中国第一歴史档案館 副主任/研究館員



開館記念式典より



档案史料



中国第一歴史档案館

沖縄県公文書館所蔵 の米国占領関係資料 群の構造について

沖縄県公文書館は、開館以来、米国にある沖縄占領関係資料を収集してきました。その収集事業のあらまじや、米国における収集活動、あるいは収集した資料について、これまでもこの沖縄県公文書館便りでたびたび紹介してきました。そこで、今回は、アプローチを変えて、沖縄県公文書館がこれまでに収集した中から主なものを、資料群ごとにまとめて、構造的に紹介することにしませう（ただし、米国で収集した資料以外のものも含めてあります）。

下の表をご覧ください。資料群は基本的に、その文書がどこで作成されたか、あるいは受け取られて保管されていたか、という「出処」（しゅっしょ）によって分類してあります。省レベルの出処の右側欄にその省の下位レベルの組織がぶら下がる形の階層構造にしてあるので、文書群どうしの、組織的な関係がわかると思います。

米国沖縄占領関係資料

出所／省レベル	文 書	数 量
1. 国務省	セントラルファイル、サブジェクトファイル等	274フォルダー
2. 国防総省／陸軍	USCAR文書 USCAR広報局写真資料 〃 高等弁務官関係写真資料 USCAR広報局ニュースリリース 琉球水道公社文書 運輸局長室文書 工兵局長室文書（沖縄地区工兵隊関連文書） 陸軍地上部隊司令部文書 第10軍24兵団文書 参謀本部文書（オフラハティ文書） 陸軍（通信隊）写真資料	約140万コマ 10,052枚 786枚 2,736件 5,922件 35フォルダー 205フォルダー 16フォルダー 44フォルダー 165フォルダー 3,270点
3. 国防総省／海軍	海軍写真資料 海兵隊写真資料 沿岸警備隊写真資料	278点 141点 56点
4. 国防総省／空軍	米空軍写真資料 空軍歴史調査研究センター所蔵沖縄戦関係資料	797点 95冊
5. 大統領府	国家安全保障会議	37フォルダー
6. 内務省	領有地局文書	6フォルダー

USCAR文書の検索について

USCAR文書の検索はキーワード検索、組織別検索、そして主題と資料形態分類の組み合わせによる検索方法があります。

目的に応じた検索方法を試してみてください。

ここでは主題分類(Subject Code)と資料形態分類(Types of Records)の一部を紹介します。

	コード	分 類	英 語	用 例・備 考
主 題 分 類	000	一 般	general	
	011	各種団体	groups	
	021	世論	public opinion	
	023	反戦・平和運動	peace movement	反安保、原子爆弾禁止運動など
	025	マスメディア ジャーナリズム	mass media journalism	
	031	婦人・青少年問題	women, youth	
	047	気象	weather	台風、干ばつなど
	050	沖縄一般	okinawa general	050～083には奄美大島を含む

	コード	形態	タ イ プ	用 例
資 料 形 態 分 類	a(01)	指 令 指 示 指 法	directives instructions proclama- tions laws rules regulations	公的組織から発せられた指令、指示、法律全般を指す。 特定の個人あての指示書（人事、出張命令）政党、民間 組織の指示書などは「m」
	b(02)	出版物	publicatons	本、雑誌、パンフレットなど公に頒布された出版物を意味し、ガリ版刷りの内部資料は含まない

沖縄県公文書館では、保存期間を満了した県文書の中から、歴史資料として保存するものを選別・整理し、閲覧に供しています。



平成11年度受入の知事部局文書の内訳は以下の通りです

(単位：箱)

	部	1種文書	2種文書	3種文書	4種文書	計
1	総務部	11	5	8	26	50
2	企画開発部	4	32	21	11	68
3	文化環境部	22	11	37	2	72
4	福祉保健部	35	46	285	18	384
5	農林水産部	110	252	15	31	408
6	商工労働部	6	26	34	4	70
7	土木建築部	48	124	266	7	445
8	出納事務局	1	4	0	0	5
	計	237	500	666	99	1502

上記受入文書の書架総延長 205.19m
1種文書は保存期間を延長したものの177箱を含む

*この他、南部土木事務所から保管文書1,023簿冊、(財)沖縄県畜産振興基金から畜産課文書23簿冊、国際交流課から琉球政府時代の移民関係文書52簿冊の引渡を受けました。

寄贈・寄託資料の概要

一、松岡実・敬氏寄託松岡政保関係資料

琉球政府第四代行政主席松岡政保氏が所蔵した文書・図書・写真資料。沖縄の行政に寄与した氏の足跡をうかがうことができる。一九九五年寄託。約一、〇〇〇点。

二、アルビン比嘉氏寄贈比嘉太郎関係資料

ハワイ移民一世の故・比嘉太郎氏が収集した沖縄移民の資料。ハワイ移民のものが主であるが、南米移住地の資料も見られる。比嘉氏は戦後沖縄の救援活動を現地で積極的に推進した。貴重な写真や映像資料を含む。ハ子息のAlvin Higa氏により一九九五年に寄贈。

三、平良梅子氏寄贈資料

復帰後第二代県知事を務めた平良幸市氏が所蔵した私文書・論文・図書など約一一〇点。一九九五年に婦人の梅子氏より寄贈。

四、G. H. Ker (カー) 資料

カー氏は一九五二年に米国民政府・民政長官の依頼で「琉球の歴史」を書き上げた人物。氏の残し

た膨大な覚書や収集資料は研究者の関心が高い。一九九六年四月、生前のカー氏と親交のあったChris Pearce氏より寄贈。

五、富名腰義珍関係資料

日本本土に空手を紹介し普及に功績を残した富名腰義珍氏の映像資料（一九三〇年頃のもの）のほか、私文書・写真資料を含む総数約二〇〇点。一九九六年粕谷眞敬氏より寄贈。

六、森田芳雄氏寄贈ラサ島関係資料

太平洋戦争末期、ラサ島（沖大東島）守備隊として上陸した森田芳雄氏が持ち帰った陣中日誌の他、兵用地誌図・ラサ島俯瞰図など全二二点。戦史資料としてユニークな価値を有する。一九九六年本人より寄贈。

七、財沖縄国際海洋博覧会協会文書

沖縄の本土復帰記念事業として一九七五年に開幕した海洋博の運営主体であった沖縄国際海洋博覧会協会の文書。財沖縄国際海洋博覧会記念公園管理財団から一九九六年に移管された。文書資料に加えて、協会発行の刊行物・映像資料を多く含む。資料総数約八、五〇〇点。

八、岸秋正文庫

沖縄関係資料のコレクターであった岸秋正氏が、四〇年の間に収集した資料群。古文書・浮世絵から地図・単行本・雑誌・行政資料までカバーする広範囲のコレクションである。総数約一万一千点。一九九七年、夫人の岸朝子氏より寄贈。

九、沖縄県祖国復帰協議会資料

一九六〇年四月二八日に結成し、一九七七年五月一日に解散した沖縄県祖国復帰協議会復帰協の事務局が所有した資料。当時の関係者から一九九七年に寄贈。収発文書・会議録・大会資料・映像・写真資料など約一千点。沖縄の戦後史研究にとって貴重な資料群。

十、稲嶺一郎資料

参議院議員をはじめ県内外で政財界の要職にあった稲嶺一郎氏が所蔵した文書・図書資料。一九九七年に稲嶺恵一氏より寄贈。南米をはじめとする移民関係文書を含んでいる。全二一七箱。

十一、湧川勢津子氏寄贈湧川清栄氏関係資料

湧川清栄氏はハワイの移民一世で、「時代の先駆者当山久三伝」の著者。元シカゴ大学教授、ハワ

イタイムス編集局長、ハワイ日本総領事館顧問などを歴任した。終戦直後の沖縄の困窮に心をいため、「沖縄救済復興会」の代表として対米国政府交渉を展開し、多くの物資を沖縄に送った。また琉球大学の設立を米国政府に提案したことでも知られる。夫人の湧川勢津子氏により、氏の収集した移民関係資料、私文書類の一部約六箱が一九九七年に寄贈された。ハワイで活動した牧師比嘉賀秀（静観）氏の日記も含まれている。



日米関係史の重要な文書が発見されるたびに新聞で取り上げられる米国立公文書館。機密文書の宝庫としての地位はどうやって築き上げてきたのでしょうか。

国立公文書館の正式名称は「国立公文書館および記録管理庁」。長ったらしい名前ですが、後半の「記録管理庁」としての機能に、機密文書の宝庫としての秘密が隠されているのです。

実は、国立公文書館がその本領を発揮できるか否かは、文書が公文書館へ移管されるずっと前、つまり文書がまだ連邦各省庁の管理下にある間にほぼ決まっています。文書はその「作成」「維持」「処分」の段階でいかにきちんと管理するかで移管後の使い勝手が決まるからです。

そのため国立公文書館は「ファイル・プラン」、「スケジュール」と呼ばれる分類表や処分計画作りなどを通して、各省庁の記録がきちんと「保管」され、合法的に「処分」され、スムーズに公文書館へ「移管」される体制作りに絶えず力を注いでいます。

戦中・戦後二十七年間に渡って沖縄統治に関わった国防省、陸軍省、国務省などの記録もこうした管理体制の下で残されたものです。沖縄統治関係資料は、少なく見積もっても前回ご紹介したUSCAR文書三百二十万ページを含めて文書で四百万ページ、写真で十萬枚、動画フィルムで三千本。その多くが地元沖縄には残っていないものです。この膨大な記録の中から、日米安保条約の事前協議制に関する密約、沖縄返還交渉における財政密約の存在などが研究者によって次々と明るみに出されてきました。

国立公文書館の評判の良さは、連邦各省庁におけるきちんとした文書管理体制のお陰と言っても過言ではありません。国立公文書館と各省庁の間にこの強固な協力体制が存在する限り、アメリカにとって不可欠な記録は、アメリカと外交のあった国や地域にとっても不可欠な記録となり続けることでしょう。

世界中の研究者を引きつけて止まない機密文書の宝庫は、決して偶然にできたものではないことがお分かりいただけたと思います。

～平成12年度 業務報告～

沖縄県公文書館ではこれまで多くの資料を収集整理し、利用に供してきました。

平成11年度末時点の利用、収集、整理の状況は次のとおりです。

1. 平成11年度及び過年度入館者数及び閲覧者数

	平成8年度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	合計
入館者数(人)	7,699	7,519	8,915	9,207	33,340
閲覧者数(人)	4,860	4,026	4,416	5,243	18,545
年間開館日数(日)	274	277	291	291	1,133
一日平均入館者数(人)	28.1	27.1	30.6	31.6	29.4

2 公文書館資料の収集、整理状況

平成12年3月末現在

資 料 名	資料収蔵数	資料登録数	資料登録率
琉球政府文書	161,868簿冊	160,838簿冊	99.30%
沖縄県文書	23,912箱	8,142簿冊	—
英文資料	11,489件	11,404件	99.30%
USCAR文書 (マイクロフィルム)	収集予定数3,200,000コマ 収蔵数1,400,000コマ収集率43.8%	830,000コマ	59.30%
沖縄占領関係写真	15,424件	9,071件	58.80%
中琉関係档案史料(レプリカ)	197点	197点	100.00%
中琉関係档案史料(マイクロフィルム)	1,817件	1,817件	100.00%
行政刊行物	28,652件	27,234件	95.00%
地域資料	61,008冊	20,579冊	33.70%
琉政文書等館内撮影・複製マイクロフィルム	2,542,077コマ	2,542,077コマ	100.00%
地域資料等館内撮影・写真フィルム	22,447コマ	22,477コマ	100.00%
マイクロ引き伸ばし(館内撮影・引き伸ばし)	4,848枚	活用(写真で)	—
沖縄関係映像資料	1,412巻	274巻	19.40%
沖縄関係音声資料	2,976巻	33巻	1.00%



~To those visiting Okinawa for the Summit~

The Okinawa Prefectural Archives welcomes you by introducing the history of Okinawa mainly through governmental records.

We collect, process, and provide a reference service for government records from the period of the kingdom of Ryukyu to the present day, including the U.S. occupation era. The OPA preserves these precious sources for future generations by maintaining them in the best possible conditions.

GRI Records

The OPA has collected and provides facilities for using more than 150,000 volumes from the Government of the Ryukyu Islands, or GRI (Apr. 1, 1952–May 14, 1972)

USCAR Records

The OPA holds microfilms of official papers of the United States Civil Administration of the Ryukyu Islands (USCAR) which controlled post-war Okinawa. The originals are in the U.S. National Archives.

Prefectural Records

The OPA manages Okinawa Prefectural Government records, selecting for permanent preservation those of particular historical significance for which the mandatory document retention period has expired.

Government Publications

These constitute the official publications of the prefectural government and municipalities of Okinawa.

Local Materials

The OPA collects books and private documents relating to Okinawan history and culture. Reproductions of Sino-Ryukyuan diplomatic records have been made for public access.

Audio-visual Materials

These comprise audio-visual sources, photographs etc. relating to Okinawa.

Acquisition Policy

The OPA collects documents of historical importance from the era when Ryukyu was an independent kingdom to the present day.

Preservation Policy

After incoming materials have been fumigated and classified, they are stored in the most appropriate environment.

Public Access Policy

Processed materials are open to the public.

Outreach Programs

The OPA holds various lectures, special exhibitions, and workshops. It also publishes research reports on its collections.

How to locate materials

References to sources can be easily found by using our computer system. On entering research topic keywords, a list of all the related documentation will appear on the screen.

To Find Materials....

Please use our computer system for quick and efficient research. For assistance, please follow the on-screen instructions.

発行：沖縄県公文書館
編集：財団法人沖縄県文化振興会
公文書管理部
〒901 - 1105
沖縄県南風原町字新川148 - 3
TEL (098) 888 - 3875
FAX (098) 888 - 3879
ホームページ
<http://www.archives.pref.okinawa.jp>

表紙の説明

1816年に来琉した英国海軍士官バジル・ホルの一行を見送る人々。後に執筆した「大琉球島探検航海記」で彼は友好的な琉球の人々を紹介しました。サミット開催で来県される国内外の方々もこのように友好的に出迎え、見送りたいものです。



展示室閉鎖のお知らせ
沖縄県公文書館開館五周年記念特別展の準備のため平成12年7月25日(火)30日(日)及び8月11日(金)は展示室を閉鎖します。
なお閲覧室は通常どおり利用できます。